

——の右側がわに、漢字 または 漢字とおくりがなを  
書きましよう。

じゆんぶ、グループぜんいで あそびにいきましよう。

どぶづぶえんと ゆうえんちの どちらにいくか、たすう

けつで きめましよう。

じこから なんせいほじつにある きょうとは、とても

じつじくじにみやいです。

じゆんげんきゆうで えちずを つくりました。おみや、

しやくしよ、えき、さかや、そしてび術じゆつかんのばしよ

を きにゆうしました。

ちょうりに、おさけを つかつことがあります。

いちばんのせばんごうをつけたとうしゆが、ボールを  
なげました。

みずうみのすいおんが たかかつたので、およぎました。

ともだちは、きゆうでんのように おおきな いえに

すんでいます。 そのおくじようで、いっしょに かき

ごおりを たべました。

すいえいは、せんせいが プールの みずの おんどを

しらべてから、かいしするかどうかが けっていします。

しゆじんごうが ふねで きたに むかっていて

ひょつぜんにぶつかりそうになったときに、わたしは  
むねがどきどきしました。

「すいちほづのうつくしいまちで、しをかきました。

きょうじつにあったおとしもののもちぬしをさがし、

あちこちせいりしていたら、せんせいからおれいを

いわれました。

「ゆさくのてんしがさねのうえにゐるよ」から、

「このものがたりははじまります。

このほんにはいつているのは、せんぶ、じころのあたた

まるおはなしです。

ちぎゅうは、せいかつしていると まったく ういいて

いないように おもいますが、じつは ういっています。

この入やを しようした あとは、ぜんぶ もとに戻して

ととのえてから かえりましょう。

おもなぎょうじでも、ういいておいて ちぎゅうするんですよ

があります。